

発 展	6 三本木原台地と火山灰台地の開発のようすについて関連づけ本時のまとめをする	○発展として鹿児島県のシラス台地の開発に目をむけさせる	⑩ 火山灰地の開発 (写真)
-----	--	-----------------------------	----------------

(2) 検証と考察

① 尺度設定について

ア 評価の観点

- ㉞ 国内の特色ある地域の気候と仕事やくらしとの関連をつかむことができたか。
- ㉟ 国内の特色ある地域の地形と仕事やくらしとの関連をつかむことができたか。
- ㊱ 事象と事象を比較してとらえる能力が育ったか。
- ㊲ グラフと地図など、2つ以上の資料を結びつけて事象の読みとりを深めることができたか。
- ㊳ 郷土との対比能力が育ったか。

イ 評価の例

〇つぎの「農事こよみ」をみて、問題に答えなさい。

宮崎県の野菜つくりと米つくり

1. 宮崎県では、米や野菜のとり入れが、わたしたちの市とくらべて、どのようになっていますか。()

2. 宮崎県でつくられた野菜が、東京・大阪などの市場で高い値段で売れるわけを書きなさい。() 以下略

② 授業の考察

ア 農業のくふうを地形や気候の特色と関連づけて考えさせるために、思考を養う場面を計画的に設定したが、地形や気候の条件との関連で課題を追求することになり困難が感じられ、大部分の児童は途中で思考が停滞する状態が見られた。とくに、土地利用図や地図から地形条件をつかませることは、気候条件をつかむ以上のむずかしさが見られ、地図指導における他の資料の相補併用について、さらに研究の必要を感じた。

イ 農業のようすをとらえさせるために、農事こよみを活用したが、気候条件の全く異なる地域の農事こよみと対比させ、作付の時期・とり入れの時期に目をむけさせて、そこから気候との関連をとらえさせていく方法は、かなり効果があった。相違のはっきりした資料によって比較思考させる方法ができるので学習が活発となり授業中の発言やノート記録に思考の深まりが見られた。

ウ 単元導入の段階で、自分の住んでいる土地の気候についてじゅうぶんまとめておいたことが、指導の過程でたいへん効果的であった。それが他地域の気候条件をとらえる際に、比較したり、関係づけたりする具体的な根拠となっており、問題考察のきっかけになったり、思考を前進させることができ、効果的であった。

③ 事前、事後テストの結果 <表3>事前、事後テスト(事前9月上旬、事後10月下旬)単位%

問 題	1 思考力					2 思考力					3 思考力					4 思考力				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	
正答率	29.0	22.6	9.7	16.1	19.4	19.4	12.9	16.1	22.6	9.7	3.2	6.5	9.7	16.1	19.4	12.9	16.1	19.4	22.6	
事後テスト	93.6	80.7	74.2	87.1	87.1	80.7	83.9	87.1	90.3	90.3	54.8	58.1	74.2	74.2	90.3	77.4	90.3	80.6	71.0	
有効度指数	90.9	75.1	71.4	84.6	84.0	76.1	81.5	84.6	87.5	89.3	53.0	55.2	71.4	69.2	87.9	74.1	88.6	75.9	62.5	

5 思考力					6 知識理解					7 知識理解			
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
9.7	22.6	29.0	6.5	19.4	16.1	22.6	25.8	25.8	19.4	12.9	9.7	16.1	22.6
61.3	83.9	74.2	45.2	93.6	96.8	87.1	93.6	93.6	80.7	93.6	96.8	100	100
57.1	79.0	63.6	41.4	92.1	96.2	83.3	91.4	91.4	76.1	92.6	96.7	100	100

混乱させたこと、特に下位児童にそれが強く表れており、設問のまずさを痛感した。問23の気候条件による農作物の種類の問題も設問のまずさが原因と考えられる。

イ 問19では「荒地に用水路をひく」こと

④ 結果の考察

ア 問11, 12は気候グラフから気候条件を考察させてみた。事前テストで10%以下であったことから授業においては資料提示活用に留意して考察させたが、結果は50%台である。その原因を分析してみると、提示したグラフが多すぎて児童の思考を

は、A「土地のようすをうまく利用する」B「自然のようすをつくりかえる」のいずれであるかを、この2つから正答Bを選択する問題である。正答を選択できない児童がでたのは、地形や気候の「利用、開発」の追求に指導上のあいまいさがあったためではないかということ、また、展開の前提条件とも